

群馬菱の実会だより

紙面版：令和5年3月号 <愛好会成績や写真等は、下記ホームページに掲載>

ネット版：<http://www.hishinomi-gunma.sakura.ne.jp/~hishimig/>

令和5年度・群馬菱の実会総会は書面決議とします

4月18日に予定していましたが令和5年度の菱の実会総会は、コロナの感染が減少傾向となり行動制限も緩和され、全国的にイベントも開催されるようになりました。今年も開催する方向で進めていましたが、群馬県の警戒度は「2」の状態が続いており3月以降もどうなるかわからないこと等から、安全を優先し、今年度も集会の開催は中止としました。

来年度はコロナも収まり開催出来ると思いますので、後1年お待ち下さい。

令和4年度の活動報告と5年度計画につきましては、別途送付しますので、ご了承をお願い致します。

【会員投稿】

◇追憶！ 農家主体の小さな部落に住んで

大槻伸次

50余年前のこと、縁あって市の中で尻から2番目で農家が主体の極小部落に新居を構えたが、そこは全くの片田舎で周辺は見渡す限り畑と水田で、赤城山の裾野が丸見えのところだった。そして家敷の裏の素掘りの農業用水路は、小魚が群れを成していた。周辺の田圃では時々「イタチ」がキョトンと顔をだし、屋敷前の梅林は「野兎」がピョンピョンと駆け回り追い掛け回したこともあった。それを知った両親から、そんなところに住んで大丈夫かと心配されたこともあった。そこで、なぜわざわざこんな片田舎を選んだかという将来趣味のアマチュア無線をやる為、周辺に障害物がなくてアンテナを設置するのに都合が良く広い屋敷が必要と考えたからである。他にオーディオも趣味だったので、クラシック音楽を大音量で聞きたいというのもあった。

購入した土地は水田だった為農地転用の許可をとり、縁あって尾島のヤマトイモ畑の土をダンプ40台で運び埋め立てた。そこで、しばらくの間ヤマト芋があちこち生えてきた(現在もその名残が生えてくる)。そして購入から半年くらい経った頃、突然不動産屋さんが様子伺いに来てくれた。その茶飲み話によると、この近辺の広大な水田一帯が埋め立てられ大住宅団地が造成されると打ち明けられた。そこで不動産屋さんからこの土地を安く売ってしまったと嘆き節が聞かれた。

住いは先輩の父親が大工さんをしていたのでお願いした。そこでいよいよ棟上げとなったら、何処で耳にしたのか区長さんという方が日本酒の一升瓶を下げてきてくれたから田舎はお堅いなと思った。ところが、家が完成したら離れてはいるが隣組となる人たちを大勢呼んでお茶飲み会をするのが慣わしだと聞き、宴席の準備に大童になった。そして、年初から勇躍住み始めたら赤城嵐の直撃を受けその寒さに震えあがった。そして2か月もしたら新年度となり釜番という神社等の世話人役も回って来た。

釜番の相手は一世代も上の人達で、村の伝統行事や各家庭を回っての神社のお札配りなどしたが、そこで驚いたのはどの農家も古い造りで、玄関を開けるとそこは広い土間で、土焼きの大きな火鉢が置いてあり「鉄瓶」がかけられて懐かしさを感じた。

ところが、この頃の日本は高度成長期で、何処の農家も古い家を壊して新しく建て替える家が続出したが、古い家を取り壊すのに村の全戸で手伝いをするのが習わしと云われ、真っ黒になって一日が終わった。そして、住人となつてしばらくすると、村の誰々さん（どんな方か全くわからない）が亡くなったと知らせがあつて、その日のうちに顔出しに行くのが習慣と云われた。私が出勤の日は妻が代行することもあったが、世帯主が行くのがベストだったようだ。また、当時は村人が亡くなると自宅葬の為、全戸でお葬式（ジャンボン）の準備をすると云われ3日間動員された。そこで、当然のこととして会社を休まなければならぬから、毎月のように亡くなる方がいたこともあつて休暇が取りにくく困ったことがあつた。隣組の仲間は勤務先で、また誰かを殺して休暇を取るのかと嫌味を言われたことがあつたとか聞いたことがあつた。

お葬式の準備は手分けで行い、亡くなった方の家の親戚の知らせ（当時は電話が普及していなかった。）と坊さんとの打ち合わせや送り迎え、寺の葬儀用具の取り揃え、竹細工、（使い捨ての箸や葬列時の持ち物、墓に備える飾りもの。）土葬墓地の穴掘りだった。他に、女性たちは食事の支度等があつて、あちこちツケで食材の買い出しを頼まれた。（豆腐屋が多かった。）その葬式を取り仕切るのは葬儀委員長だったが、村に長く住んでいる人達は、そちらの中で選んだようだが、私が住む新開地は新参者ばかりだったので、私に（新開地の古参）2度葬儀委員長が回って来た。ところが、手違いで寺世話人への連絡がちょっと遅れたことがあつて、こっぴどく怒られた。

お葬式当日は、自宅に設えられた葬祭壇の前で坊さんの読経が行われ焼香が終わった後、埋葬の為菩提寺に向かうのに葬列（野辺送り）が組まれた。葬列の順序は道案内として高張提灯を持った人が先導し、続いて花籠（道中小銭を振りまく）、弔旗、花輪、紙製の蓮華花、枕飯、香炉、その他もろもろと続くが、お膳持ちは故人の妻や子供、続いて僧侶、位牌持ち、天蓋持ち続いて棺が最後となる（詳細は忘れた）。菩提寺に着くとシンバルの様な「ミョウハチ」をジャランボンと鳴らしながら左回りに3度？回って埋葬する墓地に運ばれるが、この時花籠の小銭が撒かれるので、この時とばかりに待機していた子どもたちが群がって拾い集めた。

埋葬が終わって供養の席が設けられるが、墓地の穴掘り役だったときは最上

席に座らせられ接待されたが、落ち着かなかった。

その他、隣組長になったとき、村の古参に納涼祭の会計を押し付けられたが、終わった後役員だけで外へ飲み食いに行くというのがあって、その会計処理は任せると云われた。ところが、どこから何の名目で支出しようかと一人で思案し苦労した。

また、村では集会があると必ず議論が伯仲？するからどうしてかなと思ったから、晩酌をやってから来ると聞いた。そこで、また会議が荒れるのかと思うと出席するのが億劫になったことが度々あった。

他に、新年度になると道普請や用水路の補修工事や堀浚いに動員された。道普請とは道路の砂利敷やでこぼこ道の補修などで、用水路の補修工事は土手が崩れたところに松杭を打ち甲羅板をあてがって土留め作業をしたが、次の日まで疲れが残った。

他に極小部落であった為、体育協会主催の野球やソフトボール大会は否応なく参加を求められ、運動会は次々と競技に駆り出された。

現在は、区を取り巻く環境と区内の世代交代が進んで状況が一変し、全てが簡素化されほっとしているが（簡素化も程度問題だろうが）、唯一用水路の堀浚いは今でも実施され出席しないと出不足料をとられるのは変わらない。

当時（50 余年前）、何も知らず考えず農家主体の超田舎に居を構えてしまったが、いろんな伝統的な習慣があって溶け込むのに難儀し住むのに嫌気がさしたこともあった。なかでも驚いたのは住み始めて2か月早々で、村の世話番役である釜番が回って来て驚いたが、そのお陰で村の様子が早く理解できたというはある。また、極小部落であったから区長をはじめとして全ての役職が回って来て、それが更に発展して区域の役員や市の団体役員も経験することになったのは私の人生に於いて大いにプラスになった。また、周辺的环境も大きく変化し、住み始めた当時は田圃の中の一軒家という感じだったが、その数年後隣近所となる家や直近に大きな住宅団地が造成され、スーパーやホームセンター、複数の医院も開業しすごく便利になった。更に我が家から50mほどの所に中学校が移転され、小学校も直線道路先600m程だったので子どもたちの通学に至極便利だった。最近では、直ぐ隣に高規格の幹線道路が開通し、ここへ来た当時から比べると想像できない変わりようで、先見の目があったのかな？と自問している。（2022/8/23 記）

祝・長寿（令和5年3月～6月度）

<p>菱寿（85歳）</p>	<p>3月：小畑 哲男様、本田 武様、千葉 武様 4月：黒田 泰次様</p>
<p>喜寿（77歳）</p>	<p>6月：藤田 喜助様、茂木 敏男様</p>



この春おすすめの快適商品をご紹介します!!

社内販売セール

2023年 3月1日(水) ▶ 3月31日(金)

くるま購入者紹介制度

ご本人、親族・知人等や、取引先の業務用車など、新車の購入を考えている人や会社をご紹介します!!

出しましよ。くるま情報を



はい! その新車を 買おうとして いるあなた!

見逃さない! お得な特典がいっぱいです。

- 「くるま情報カード」を窓口へ
- 特典1 三菱電機からの紹介特典 **クオカード**
- 特典2 商談成立後の特典 **謝礼金 + 図書カード**

紹介者

相談窓口

様々な障がいのある社員が心を込めて1枚1枚丁寧に手作りしています。



優しさを届けるクッキー

【受付窓口】MDライフ群馬 0276-52-4669

省エネリフォームは今がチャンス!

全ての世帯で利用可能です。

給湯省エネ事業 (指定のエコキュート)

補助金 5万円

「エコキュートの買い替えで」

子どもエコすまい支援事業 (各種リフォーム)

補助金 30万円まで

「指定のエコ住宅設備等」

先進的窓リノベ事業 (高性能断熱窓改修)

補助金 200万円まで

「高性能窓改修で」

受付期間 3つの支援策とも 令和5年3月下旬～予算に達するまで(遅くとも令和5年12月31日まで) ★詳しくは菱馬テクニカにご相談ください。

販売・施工・メンテナンスまで安心してお任せください。

菱馬テクニカ株式会社 営業課



0120-941-650

10:00 ▶ 18:00(土・日も承ります)

訃報



真下 富夫さん(享年 87歳)
1月10日にご逝去されました。
ご冥福をお祈り申し上げます。

紙面版菱の実会だよりの次回発行は 2023年7月1日の予定です。

発行 2023-3-1 No.305

発行責任者 杵渕 喜善

● 編集: 「菱の実会だよりの」編集委員会

● 事務局 三菱電機労働組合群馬支部内

〒370-0492 群馬県太田市岩松町 800

TEL 0276-52-3874 Fax 0276-52-3207